



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞

「この頃の春は」

西谷範子

今年の春はとんでもない。春が生まれ損ねている。冬が暖か過ぎたのか、春半ばのような陽気にもなった。お水取りも済み、さあ春が来るぞと喜んだのも空回り。ぐんぐん冬に戻っていくではないか。三寒四温どころか、三寒三寒ちょっと一温サービス。最も一時期、異様に暖かい日があり、今年は春の花の開花は1週間から10日は早いぞといわれた。温度に呼応して桜も咲きかけた。この分では入学式の写真の背景に恒例の桜がないではないかと案じたものだ。その杞憂は無駄に終わり、その後の一ケタの気温にちょっと待ったがかかった。おかげで今年の桜の花の寿命は長かった。4月半ばだというのに琵琶湖畔のソメイヨシノが満開のままだった。

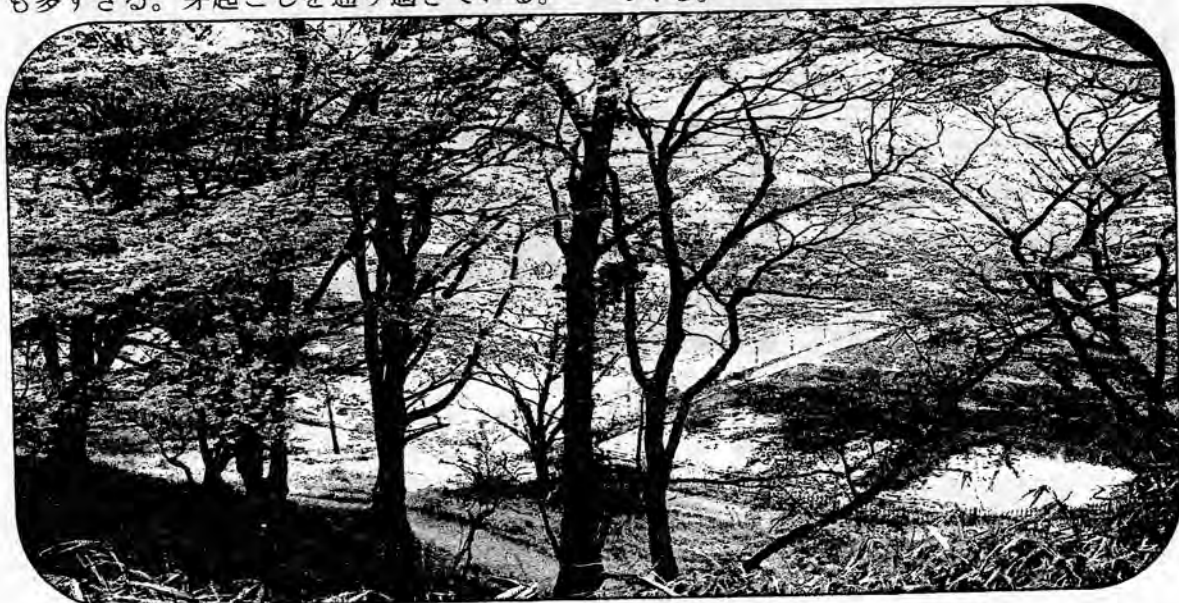
冬もおかしい。以前の奈良の冬は平地でも2～3回の積雪を見たのに、この頃は積もらない。かわりに3月の終わり頃だというのに毎年雪が降る。なんと今年は4月中頃の降雪！日々の温度差も激しすぎる。雨也多すぎる。芽起こしを通り過ぎている。

でも動物は暦を守って土から這い出している。もっとも出てきて寒さにびっくりだろう。カモやオシドリが北に帰らずまだ居る。早よ帰りや。

木々の葉芽もそろそろと展開してきて、山々のパステルカラーの見事な事！黄色の花々が野を飾る。いい加減に人間も春物の衣に着替えたい。

一方、地球が暴れまくっている。昔も天災はあったろうが、この頃は規模の大きいのが頻繁に起こり過ぎないか。地球の北の果てで火山が噴火すれば、世界の国々に火山灰が降り注ぎ、大地震があちこちで勃発して大被害となる。太平洋の対岸の地震が海を渡って押し寄せてくる。

文明や交通網の発達により、被害がグローバルになり、世界中がオタオタする。どこかの一角で起こった事は地球全体に影響を及ぼす事態になる。人間の営みが急ぎ過ぎていないか。自然の営みを見てみよう。さあ、これからは紫色の花々が勢力を広げてくる。



平成22年3月17日

奈良・人と自然の会

「やってみよう！・しいたけづくり」イベント レポート

実施日：平成22年3月13日 午前10：30～午後3：00

場所： ならやまプロジェクト・ベースキャンプ

参加者：人と自然の会メンバー33名、児童21名、保護者10名、総勢64名

実施内容：子供達に里山整備の過程で発生した間伐材を利用した「椎茸ホダ木の菌打ち」体験、里山の自然観察、雑木の間伐体験、等を通して自然と触れ合い、自然の楽しさ、不思議さ、を五感で体感しながら自然の大切さを学んでもらう。

実施結果：

連日の気まぐれな天気悩まされ、祈る気持ちで迎えたイベントの朝でしたが、児童21名、保護者10名の参加者を迎えスタートとなりました。

先ず、阿部会長のご挨拶から始まり、森川氏による安全講和が有り、続いて、森氏による作業等ガイダンス、リーダー紹介が有り、その後、児童は班毎に分かれて、各児童が一個の木槌を作り「学びの森」へ移動、学びの森では、現在生えている椎茸を、児童の手で採取体験をしてもらい、大変感動の様子。その後、ホダ木の穴あけ、菌打ち、ホダ木運搬、など、児童にとっては、初体験の作業が多く、真剣な表情ながら楽しそうに作業に取り組んでいる様子から、自分で菌打ちしたホダ木から2年後に生える椎茸を、思い浮かべている様にも見える。昼食では、美味しい豚汁に参加者全員が大満足の様子。

午後は、全員、班別に「遊びの森」へ移動、スタッフの里山観察指導、現場スタッフの基で雑木の間伐体験、児童達はノコ切りを使い木を切る経験も余り無い為、大変興味を持ち、真剣な表情でノコ切りを使い、切り倒した木を満足気に見ながら嬉しそうでした。

森での自由遊びは、初めは遊び方も分からず戸惑い気味の様子でしたが、木は登れる事に気づき、登り易い枝ぶりの木を見つけ、何人もの児童達が木登りに夢中になりなかなか降りようとしない。又、木の枝を集めて家作り遊びを始める児童もおり、ふと、自分の子供の頃の遊びと重ね合わせて、思い出しながら見ておりました。やっぱり、子供は遊びの天才だと言う事が良く分かります。



担当：池田 信明

4月例会報告 「当尾の里を訪ねて」—4月5日（月）実施—

心配していた雨にも会わず、好天にも恵まれた一日でした。26名の会員が集まり、近鉄奈良駅よりのバスで浄瑠璃寺口にて下車。満開の桜、三つ葉つつじをはじめ今は盛りの花の中を、数々の石仏をめぐりながら、岩船寺、浄瑠璃寺へとのおんびり歩いてきました。

参加されたみなさまからの感想の一部を紹介させていただきます。

「当尾の自然に石仏がとけこみ長い歴史が思い起こされる。次回には大門の摩崖仏近くに行ってみよう。荒れた竹林には胸が痛む」

「しょうじょばかまは春に花と実がなり、9ヶ月は寝るとか、葉先が土についたところから芽がでると説明を受け驚き、不思議、不思議」

「山奥の巨大な岩に刻まれた仏像はどのような思いがこめられていたのか。周辺での生活はどんな様子だったのか思いを深めたい」



「春の野道を草花と野仏にいやされながら楽しい一日でした」

「無人販売所が多いのはのんびりしているのか、がっちりしているのか？ MAPに首切り地藏がのっていない。いい天気でもとてもよかった」



「萌え出づる木々の芽、盛りの花々、沢山の石仏、見どころ満さいの楽しい一日でした。地元をよく知る大石さんならではのコース、最高でした。」

「当尾の里は岩にも神が宿る祈りの道だった。青い草花の流れと山のアオモジの黄色が印象的でした。」

参加のみなさん、お疲れ様でした。 この日の担当 大石、板橋

（文責）板橋

10周年記念企画オプション行事
東海自然歩道「柳生から桜の笠置寺―笠置山古道」

日時：4月19日 9:30～16:00 天候：晴れ 気温：18℃～22℃

参加者名：林令子、弓場厚次、塩本勝也、塩本美都子、八尋ハル、川岸美子、倉田晃、平塚等、
平岡久美、森脇和子、阿部和生、吉村さつき、谷川雅邦、高橋弘志、高本実男、
竹本雅昭、池田信明、桜木晴代、大石門三、岸谷順裕、岸谷和代、篠原章二、守口京子、
寺田正博 (24名)

行程：近鉄奈良バス(9:40)… 柳生～家老屋敷～十兵衛杉～笠置寺～JR笠置駅(16:57)

感想： 当会発足10周年を記念してのシリーズの第1回目は「祈りの道」でスタート。超満員のバスで積み残しも出、出発から疲れがでる。家老屋敷で記念写真。只一本残った「柳の森」の柳の古木に感嘆(柳生の地名の由来)。車の少ないたおやかな「幼い頃遊んだたんぼぼの道、小川のせせらぎ」「心うきうき、時間よ止まれと春の野花に涙し」「花をつけたザイフリボクやオドリコソウの群落をじっくり観察」。一天俄かに迫り来る巨石累々、往時栄えた修験道の行場、笠置寺ではお住職の有り難いお話を拝聴し「誰が何を願って巨石に仏を彫ったのか、何が彼、彼女そうさせてのか」「巨石に出会えて幸せ、磨崖仏の素晴らしさに足の疲れも忘れ、無心に見上げ、小人になった感じ、自然の偉大さに感嘆」「大きく丸い大石、彫られた仏の有り難さ、これからも長く人々を丸いお心で導いてください」「石をまたいだら一いかんーとどこかで読みましたが、納得納得、石を神として拝んだ昔の人々を尊敬」歴史は巡る笠置寺、役行者から実忠和上、空海、義経、重源、悲運の後醍醐天皇や楠正成に想いを馳せ、名残の春の山頂からは眼下の清流、うねり続ける浅緑の絨毯の山並み、春の命を戴き、清々しい気分の日でした。「そうだと全コースを完走してご褒美をいただこう」。世話役 弓場厚次、大石門三



<癒しの散歩道>

桜色の春

谷川 萬太郎

去年よりずっときれいになった君に逢いたくて いやきつと逢えるから
今年も私が訪れた佐保の川辺には桜色に染まる春色の散歩道が
あなたらしく咲きほこる恋模様にときめいた句の腫が眩しいくらいに
そっと肩にふり注ぐ花の匂いはまるでわた帽子のように優しくて
せつなに花散るまいと支え合う幾重の枝が冴える青空に長く伸びて
桜衣裳をまとい華やかに舞う佐保姫は姿隠して啼く鶯の声を追う
でもなぜ明日という季節の足下を花びらで散り染める日が来るなんて



ならやまプロジェクト・レポート 22年4月

3月31日（水）晴 笹藪跡地の整地 サトイモ、ヤマトイモ植付け 参加者25人

- ・笹藪跡地の整地が県の業者によって始まりました。笹の根を掘り起して整地し、今後の植樹や畑地への植栽など一帯の景観形成活動の下準備です。また、懸案だったビオトープの池づくり工事も着手します。皆様のお力添えをお願いいたします。
- ・サトイモとヤマトイモの植付けをしました。昨年大好評だったこともあり、念入りに土作りなど準備したので、秋にはいい収穫が期待できることでしょう。

きょうで21年度の活動は終了。年間を通じて事故なく、ほぼ計画通り完了できました。年間の参加者数は、延べ1952名（内ビジター522名）と前年度に比べ669人の増加となっています。われわれの活動が、会員と地域の皆様のご支持をいただいて定着し、ますます発展し続けている証しとして、喜ばしいと思います。

4月8日（木）晴 竹林間伐 筍の収穫 ベースキャンプにテント設置 参加者34名

- ・昨年より手入れを継続中のE地区の孟宗竹林では、明るくなった竹林に太いタケノコが顔を出しています。ひと雨ごとに大きくなり、当分は収穫を楽しめそうです。
- ・ベースキャンプにしっかりしたテントを、との希望が多かったところでしたが、さる団体のご好意により中古のテントを拝借することができ、本日設置しました。約15坪の広さで休憩や雨の避難の場所として大いに役立つことでしょう。

4月10日（土）晴 菜の花まつり 参加者55名（内ならこーブ会員35名）

- ・好天のもと、「菜の花祭り」が開催されました。ならやまで採れた筍や菜の花、春の野草の天ぷらや、ならやま名物の豚汁に、みな舌鼓。昼食後は、応援に駆けつけていただいた一村さんのアコーディオンと大石さんの指導で、懐かしい春の歌の合唱となり、参加者は菜の花いっぱいのならやまの景色に陶然としていました。



4月12日（月）雨 野鳥調査（観察者3名）・佐保台小学校との実習打合せ

- ・佐保台小学校から、昨年に続き5年生の稲作りを、また今年から6年生に山林の実習をして欲しいとの申出があり、協力することになりました。（古川祐司 記）

＊ならやま里山林花だより＊

守口 京子

4月15日（木）日増しに山の緑が深まり、色とりどりの花が咲き始めました。

草花…ハコベ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、シヨカッサイ、オランダミミナグサ、ナズナ、ナタネ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、ヘビイチゴ、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、ハハコグサ、カラスノエンドウ、ゲンゲ、ノボロギク、スズメノヤリ、ヒメカンスゲ、ツボスミレ、シハイスミレ、シャガ、ムラサキカタバミ、キュウリグサ

木の花…コバノミツバツツジ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ウスノキ、ザイフリボク、クヌギ、アベマキ、コナラ、ネズミサシ、アケビ、ミツバアケビ、サルトリイバラ、アオキ、コバノガマズミ、クサイチゴ

ウスノキの花には美少女の趣があります。高さがわずか30 cmぐらいの木でももう成木で花を付けています。緑色の枝に鮮やかな黄緑の葉を伸ばし葉の周囲は赤いです。花は葉に隠れるように垂れ下がって咲いています。丸い提灯のような花の先は5裂しくりと外巻きにカールしています。花の大きさはわずか5mmほどで、黄緑色を帯びた透き通るような白い肌の縁はほんのり口紅みたいなきれいな赤い色です。萼は細長くて5つの稜があり、萼の先も口紅です。秋に5角柱の白の形の赤い実を付けます。



＊ならやまの鳥＊

小田 久美子

4月12日（月） 小雨のち雨 観察者3名 今年もトラツグミの声がしました。

＊モンシロチョウ異聞＊

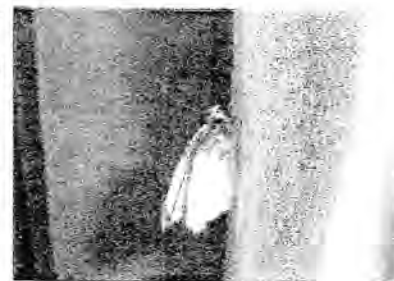
菊川年明

3月11日（木）のならやまの活動日に大和真菜（ヤマトマナ）を分けていただきました。当日は家内が既に夕食の準備を済ませていましたので、菜は翌日の夕食にいただくことにし、菜は家内がよく洗って金網のザルに移していました。

さて、翌日の夕方です。家内が「菜を茹でようとしたらチョウが出てきた」と言うのです。家内が持ってきた菜の入った金網のザルを見ますと、羽化したての、羽がまだ伸びきっていないモンシロチョウがいました。「昨夜、菜を二度もていねいに洗ったが、何も気がつかなかった」と言うのですが、菜の中にモンシロチョウの蛹が付着していて、それが羽化したことに違いありません。

そのうちにチョウの羽が伸びてきて、ひらひらと開閉するようになりました。たいへん奇異な光景でした。

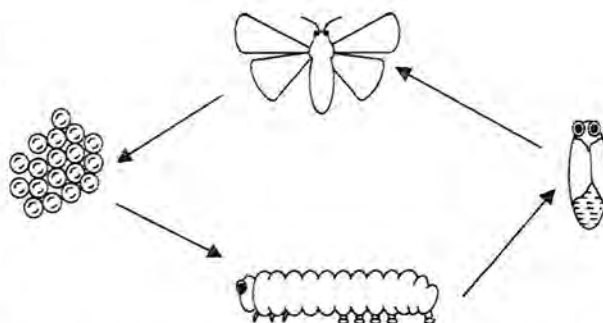
（写真は菜の中から現れたモンシロチョウ）



ヨトウムシはキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ナスなどの葉をかじって穴をあけ、ときには太い軸だけを残して株全体をぼろぼろにする大害虫です。ならやまの農園でも我が物顔で暴れ回っています。また、マリーゴールド、キンセンカ、パンジーなどの草花類も大好きです。ヨトウムシは漢字では夜盗虫と書き、数種類の蛾の幼虫の総称です。その代表選手がヨトウガと呼ばれている種類で、もっとも発生が多くいろいろな作物を攻撃し被害も大きいです。

幼虫の体色は、成長につれて緑色→淡緑色→黄褐色→暗褐色と変わります。十分に成長すると、長さは3～4センチになります。卵は白色、饅頭形で数百個が1塊となっています。蛹は赤褐色で土の中で蛾に変身します。成虫の蛾は、暗褐色で大きさはモンシロチョウの2/3位です。発生時期には夜間灯りに誘われて家の中に飛び込んでくることもあります。

蛹の状態で土の中で越冬し、5月の連休頃に成虫の蛾となって飛び出し、野菜や草花の葉裏に産卵します。ふ化した幼虫はアオムシによく似ており、卵のあった葉の裏を集団でかじって葉を1枚だけ透かし状にします。これが被害の始まりです。幼虫は成長するにつれて四方に散らばり、やがて体色が褐色へと変わると、



昼間は土の中に潜って眠り、日が暮れてから活動するようになります。この頃になると食べる量も半端ではなく、あっという間に葉は丸坊主にされてしまいます。7月頃には土の中で蛹になりますので被害も収まります。しかし、9月末頃に再び成虫の蛾が現れて産卵しますので、10月から11月に葉の被害が再び現れます。

防除対策

- ・ 5月と10月、農作業の折に、葉の裏を調べて卵塊を見つけて葉ごと取り除きます。また、葉の色に注目し、小さな穴があき黄褐色に透かし状になった葉を見つけると葉ごと取り除きます。非常に効果的で、葉1枚の処分で400～500匹の虫を退治したことになります。
- ・ すでに散らばってしまった虫を退治するには、穴のあった葉の裏側を調べて虫を1匹ずつ見つけて処分する以外には方法がありません。
- ・ 被害が増え続けるにも関わらず虫が見つからないときには、夜8時頃、懐中電灯を持って畑を見回ると、葉を美味しそうに食べている大きな幼虫が見つかりますので捕まえます。



また、ヨトウムシには、サツマイモ、サトイモを主食とするハスモンヨトウ、ネギを好物とするシロイチモジヨトウもいます。いずれ機会があれば紹介します。

『狭いネグラのせいで、落着くまでに何度も入れ替わり譲り合わなければいけないこのツバメたちは、きっと南の国で越冬する時「俺達はさあ 奈良の都があった所をネグラにしていたんだ、狭いけどとてもいい所なのさ」と自慢しているのではないのでしょうか。私たちがウサギ小屋と揶揄されながらも、この日本の国を愛しているように・・・』何年か前の奈良支部ネグラ入り探鳥会の記事に、こんなようなことを書いたのを思い出します。

果たして、今年帰って来たツバメたちは遷都千三百年祭にどう対応するのでしょうか。昨年と様変わりした環境、浦島さんのようにさぞびっくりするでしょう。昼の喧騒は関係ないとしても夜の祭典の音や光。。。南の国では環境破壊が進み越冬を脅かされ、こちらでは子育て支援どころか住宅難。彼らの未来はどうなることかととても心配です。ならやまを餌場に行っているツバメたちは確実にそのネグラの住人(鳥)だと思います。平城旧跡の草地には貴重な植物もあります。 ♪お祭り済んだその後は#b家を。。。 ♪(お祭りマンボ)



◎ボランティア活動保険について◎

会費を納入された会員の皆様には奈良・人と自然の会より社会福祉協議会経由日本興亜損害保険株式会社の扱うボランティア活動保険に加入申し込みをしています。

年間保険金は280円でこれは会費より充当しています。

補償の内容は、概略下記の通りですが、詳しくは担当の板橋までお問い合わせください。

ケガの補償： 死亡保険金 1,418万円

後遺障害 1,418万円

入院日額 7,000円

手術保険金 入院保険金を支払う場合で、事故発生日からその日を含めて180日以内にそのケガの治療のために所定の手術を受けられたとき、入院保険日額に手術の種類に応じて定めた倍率を乗じた額を支払います。但し1回の事故につき、1回の手術に限ります。

通院保険金日額 4,500円

事故が起こったら すぐの申告が必要です。活動日の参加者名簿記載がとても大切です。

(文責； 板橋)

花さそふ笑ひ仏の目尻かな 秀 夫

いくたえ
数多重の小さき仏桜どき 秀 夫

九体仏燭ゆらゆらと春障子 秀 夫

4月例会。岩船寺から浄瑠璃寺、石仏の道を訪う。

桜花満つ、山里の春景色、至福のひとつとき。

4月 1日。「のらの会」春の集い。人生論、それぞれの生き様を語る。

銘酒と花見弁当に、バックス 様も ぐでん ぐでん。

幹事の肝入りで、今回も一句で締める。

つわもの

山笑ふ野道に兵集ひたり	阿部 和生
一輪の三つ葉つつじの素朴かな	磯貝 猛
コート脱き足どり軽く花万朶	勝田 均
花や華酒は浮世の愛い(うい)な奴	川井 秀夫
ひとつときの花を惜しみて友と酌む	塩本 勝也 【金賞】
佐保山の桜をよそに宴かな	清水 和彦
花の雲佇むわれの傘となる	竹本 雅昭 【銀賞】
球春や阪神タイガース飛び出せり	中畑 進
のらの会ならの都の春景色	藤田 秀憲
遅咲きの花も芽出度き宴かな	古川 裕司
缶ビール桜めてつつ千鳥足	水本 遼真 【銀賞】
御陵より句を愛てつつ卯月かな	八木 順一
雨催ひ桜うらうらのらの会ー	弓場 厚次

(短歌) 平城山の桜花の下にのらの会

良き仲間に出会う楽しさ 古川 浩 【特別賞】

※ ご本人の了解を得て、原句を損なわず朱筆を入れました。 川 井 記



★3/27 西大寺・新池 ハシビロガモ・クイナ・ヒクイナ・バン・ゴイサギ(30)

オオジュリン・ツバメ

(小田)

★(斑鳩より)4/19 竜田公園を歩いていた時小さな鳴き声がありました。???モミジの葉の中をそっと覗いてみるとヒナが3羽、体を寄せ合っていました。その周りを親が飛んで時々ヒナたちに餌をやっていました。メジロの赤ちゃんでした。後で写真をよく見るとアイリングもきちんとできていました。(勝田)



原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト5・6月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）

日時： 5月 6日（木） 活動日

5月10日（月） 野鳥調査（小雨実施）

5月13日（木） 活動日

5月20日（木） 活動日

5月25日（火）（臨時活動日）田植え（佐保台小学校実習）

5月29日（土） 活動日

5月31日（月） 雨天の予備日

6月 3日（木） 活動日（ジャガイモ収穫祭り）

6月10日（木） 活動日

6月14日（月） 野鳥調査（小雨実施）

6月19日（土） 活動日

6月24日（木） 活動日

6月30日（水） 雨天予備日



集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR奈良行（平日）

8:30発 JR奈良行（土曜）

① ②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、*環境保護のため、
コップ・箸・碗などは各自でご持参下さい。

活動内容：里山林整備、環境整備、植生調査、笹・草刈、花木植栽等の景観形成、
椎茸作り、復元田畑の農作業、有機栽培の堆肥作り、土作り

*「ならやま自由活動日」：火曜日、金曜日とします。活動される方は下記まで。

*連絡先： 担当幹事 古川

☆ならやま野鳥調査

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

日程： 5月10日（月）

出発時間・場所：7時・ならやま駐車場 *5~7月は夏時間です

小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

担当者：小田

・菊川

★5月例会「春のいろいろな植物を植物園で観てみよう」

府立京都植物園で春の草木を楽しみながら学習します。「京とおうみ自然文化クラブ」の方に案内をしていただきます。ハンカチノキが咲いているかも。

日 時：5月11日（火）10時5分集合 〈予備日なし〉

場 所：京都地下鉄国際会館行き 北山駅③番出口（上がると前が植物園北山入り口）

注：集合は植物園正門前ではありません。

行き方：近鉄京都行き急行（西大寺 9:06）—竹田（9:41）乗り換え、反対側のホームに地下鉄が来ています。国際会館行き（9:44）—北山（10:05）

JRの方は京都駅で地下鉄に乗り換えてください。

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡（あれば）メモなど（園内にも軽食があります）

尚、60歳以上の方は年令を証明できるものをお持ちください。（入場料が無料）

担 当：守口京子

西谷範子

☆第9回「通常総会」

日時：5月15日（土）10時より

*午後：平城京・大極殿周辺散策

場所：奈良市中部公民館 第4講座室

<詳細はチラシを参照ください>

<6月の予定>

★6月例会「昆虫に親しむ」………橿原市昆虫館と周辺の散策

日時：6月2日（水） 近鉄大阪線 大福駅南口 09:30集合

（例：西大寺 08:48 橿原神宮前行急行→八木 09:23 榛原行準急→大福 09:27 着）

行程：大福駅～万葉の森東側遊歩道～橿原市昆虫館～万葉の森西側遊歩道～天香久山～

奈良文化財研究所都城発掘調査部資料室（藤原京跡等資料展示）～畝傍御陵前駅

〔注〕①入館料は昆虫館400円、奈文研都城発掘調査部資料室は無料です。②天香久山の登降は距離は僅かですが階段状の道がありますのでストックがあると歩きやすいです。

③昆虫館見学後の午後は自由行動可。昆虫館前 13:00 発近鉄八木駅前行バスあり。

担当：小嶺

・菊川

〔6月オプション行事〕 東海自然歩道 鳥見山公園から長谷寺へ

麦秋の東海自然歩道、榛原・玉立橋から青龍寺を経て鳥見山（トミヤマ）公園に向かいます。公園の遅咲きのツツジを愛で、標高4～500m前後の尾根道を辿り「まほろば湖」の水鳥を観察しながら「花のみてら」・長谷寺へ巡ります。気楽にご参加ください。

記

日 時：6月11日（金） 午前9時50分集合

集 合：近鉄榛原駅：北口駅前バス乗り場（針インター行10:09発乗車）

・西大寺<橿原神宮前行各停>8:54…八 木9:23（乗換）

・上本町<青山町行区快>8:52…鶴 橋8:55…八 木9:33…榛 原9:45着

コース：歩程・約9km

近鉄榛原駅（バス）玉立橋（420m）…青龍寺…鳥見山公園（昼食）…まほろば湖

…長谷寺…近鉄長谷寺駅

担 当：阿 部 和 生

弓 場 厚 次

★ 当日の天候の判断が難しい時は担当幹事までお問い合わせください。

<7月の予定>

☆7月度例会「^{やまかど}山門水源の森」里山植物観察会

日時： 7月3日（土） 日帰り・バス利用
場所： 山門水源の森（滋賀県西浅井村 野坂山地）
＊林野庁 日本水源の森100選に指定
講師： 藤本 秀弘氏（京都 東山高校 教諭）
担当： 川井 秀夫・古川 裕司
＊詳細は会報第101号（6月号）でお知らせします。



平成22年4月度幹事会議事録

日 時：4月6日（火）会場：奈良市中部公民館 司会：小田 書記：勝田

議題【報告事項】

- （1）会員数 142名
- （2）4月例会：4月5日（月）「当尾の里を訪ねて」
・26名参加。好天に恵まれた。新入会員の参加もありよかった。
- （3）3月ならやまプロジェクト：「会報3月号」記載通り。3月31日25名参加
- （4）公開イベント3月13日（土）「やってみよう椎茸作り」：準備がよかったのでスムーズに進められた。参加者64名。
- （5）新入会員歓迎会3月20日（土）：新入会員（昨年6月以降の入会者も含め）の参加は17名と参加率が高かった。・手作りバーベキューで盛り上がった。・「山・畑・例会などへの参加希望について」アンケート実施。・来年も歓迎会は実施した方がよい

【討議事項】第9回定期総会を控えての討議。

【確認事項】

- （1）アースデー出展：4月24日（土）会場：奈良市ファミリー公園前広場
- （2）10周年記念オブション企画「東海自然歩道」：4月19日（月）「笠置古道」
- （3）会員名簿作成の件：5月配布予定。
- （4）その他：会報印刷発送日：4/26（月）・5/26（水）・6/30（水）・7/26（月）
・4月10日（土）「菜の花まつり」

編集後記：＊本号の冒頭文「この頃の春は」の通り最近は「異変」と思われる現象がしばしば見られます。激しい寒暖差もその一つ。体調管理を怠らないようにして下さい。＊会報6月号の発送作業日は5月26日（水）です。「奈良県西奈良ボランティアセンター」で午前9時からです。皆様のご協力をお願いいたします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生